

# 水田での栽培を容易にする サトイモの植付けと機械収穫方法

サトイモは主に畑地で栽培されています。水田での栽培は、芽つぶれ症や裂開症などの芋の障害が発生しにくい利点がある一方で、畑地と比較して土が硬くなりやすいため、種芋の植付作業が難しく、収穫の際には土の付着量が多いことから、非常に重労働となります。

そこで、作業方法を検討した結果、植付け時は溝を切ってから種芋を置いた後、畝を高く成型する方法が適し、収穫時の土の除去と芋を分離する作業には、左右方向から押圧する子芋分離機の使用が効果的です。



溝に種芋を置いた様子  
深さ 15 cm の溝を切り、30 cm 間隔に種芋を横向きに置く



畝立て・マルチング作業  
高く畝を成型し、マルチで被覆

## 収穫調製作業に利用できる子芋分離機の特徴

分離機構	左右押圧式 掘上・分離同時	左右押圧式 分離のみ	上下押圧式
			
おすすめ対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>掘上と同時に分離作業がしたい</li> <li>年内出荷が主</li> <li>掘上機を所持していない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場と作業場の両方で分離作業したい</li> <li>年内出荷、年明け出荷いずれも分離機で分離したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業場で分離作業したい</li> </ul>
動力	P T O 駆動	P T O 駆動	エンジン
収穫作業時間と作業人数	29~37 時間/10a・1 人	11~27 時間/10a・2 人	34~45 時間/10a・2 人
	※掘り上げ、分解、収穫物の搬出含む		
販売不可の損傷割合 (%)	5.4~22.4	0.9~21.3	5.6~19.7
	※灰色低地土 ※収穫時の土壌が乾燥、または分離機の圧力を強めるほど損傷割合が上がる傾向にある。		
		株の掘上に掘取機が必要	株の掘上に掘取機が必要

(高収益畑作担当 TEL 048-536-0442)